ガス給湯器 取扱説明書 保証書付

品　名	機器コード	型式名
TP-S524RFW	11-033-22-06897	GS-S2400W
TP-S520RFW	11-033-22-06898	GS-S2000W

写真はTP-S524RFW

このたびはガス給湯器をお買い上げいただきましてありがとうございます。

ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、十分に理解したうえで正しくご使用ください。
この取扱説明書の裏表紙が保証書になっています。
内容をよくご確認ください。
この取扱説明書は､いつでもご覧になれる身近なところへ大切に保管してください。
取扱説明書を紛失された場合は、お買い上げの販売店、または最寄りの東京ガスへご連絡ください。
その際、機器本体の銘板をご覧のうえ、品名・製造年月をお知らせください。

もくじ

ページ

お使いいただくまえに

使いかた

長くお使いいただくために

TOKYO GAS

安全に正しくお使いいただくために

■この取扱説明書の表示について■

この取扱説明書では、機器を正しくお使いいただき万一の事故を未然に防ぐため、以下のような表示で注意を呼びかけています。

⚠ 危 険	この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者等が死亡または重傷を負う危険、または火災の危険性が切迫して生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警 告	この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者等が死亡または重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注 意	この表示を無視して誤った取扱いをすると、使用者等が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■絵表示については次のような意味があります。

 一般的な禁止
 火気禁止
 接触禁止
 分解禁止

 必ず行う
 電源プラグを抜け
 アースを接続せよ

お願い	ご使用になるときに、よく理解していただきたい内容を示しています。
(→P.XX)	参照ページを示しています。

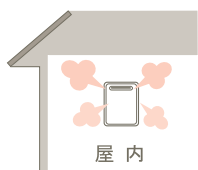
必ずお守りください

安全に正しくお使いいただくために、この内容は必ずお読みください。

⚠ 危 険

屋内に設置しない

●燃焼ガスが室内に充満したり、正常な給排気ができないため異常燃焼し、酸欠や一酸化炭素中毒の原因になります。

禁 止

ガス漏れに気づいたときは

①すぐに使用をやめて、給湯栓を全て閉じる。
②ガス栓を閉じる。また、メーターのガス栓も閉じる。
③お買い上げの販売店、または最寄り東京ガスに連絡する。

全ての処置が終わるまでの間、絶対に

・火をつけない
・電気器具のスイッチの入・切をしない
・電源プラグの抜き差しをしない
・周辺の電話を使用しない

炎や火花で引火し火災のおそれがあります。

火気禁止

⚠ 警 告

機器設置および付帯工事

●機器の設置・移動および付帯工事は、お買い上げの販売店、または最寄りの東京ガスへ依頼し、安全な位置に正しく設置する。設置工事に不備があると事故の原因になります。

増改築などで屋内状態にしない

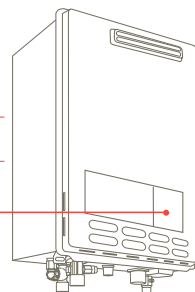
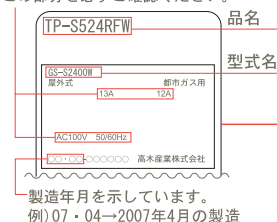
●設置後、機器や排気口を波板やビニールなどで囲わない。不完全燃焼による一酸化炭素中毒や火災のおそれがあります。

禁 止

機器の銘板を確認

●機器の銘板に表示してあるガス種（ガスグループ）および電源（電圧・周波数）で機器を使用してください。ガス種および電源が一致しないと不完全燃焼による一酸化炭素中毒になったり、爆発着火でやけどをしたり、機器が故障する場合があります。

●転居時の注意は（→P.19）

ガス種・電源を確認

必ずお守りください

⚠警 告

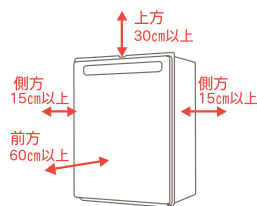
ガス接続について

●この機器のガス管の接続はねじ接続です。工事には専門の資格・技術が必要です。機器の設置・移動・取外しの際には、必ずお買い上げの販売店、または最寄りの東京ガスへご相談ください。

機器本体やガスの接続部などに乗らない

●けがや機器の変形によるガス漏れ、不完全燃焼のおそれがあります。

火災予防のために必ず守ること

●機器周辺のものとは常に図の離隔距離を確保する。

●機器および排気口の周囲には紙や木材・洗濯物など燃えやすいものを置かない。火災の原因となります。

●機器の周囲では灯油・ガソリン・ベンジンなど引火性危険物を使用しない。火災の原因となります。

●機器の周辺や上にスプレー缶・カセットコンロ用ボンベを置いたり、使用したりしない。熱で缶・ボンベの圧力が上がり爆発のおそれがあります。

禁 止

分解禁止

●お客様ご自身では絶対に分解したり修理・改造は行わない。事故や故障の原因となります。

分解禁止

お子様には十分な注意を

●浴槽にお湯張りしているときに、お子様を浴室で遊ばせない。思わぬ事故につながることがあります。

給排気口の前方に物を置いたり洗濯物でおおわない

●不完全燃焼や火災のおそれがあります。

給湯・シャワー使用時の注意

●シャワーなどお湯を使う場合は、リモコンの表示温度をよく確かめ、手のひらで温度を確認して湯温が安定してから使用する。次のようなときは注意してください。
- ・お湯を再使用するとき
- ・給水圧が下がったとき
- ・お湯の量を急に少なくしたとき
- ・機器が故障したとき

●給湯使用時は出湯管(蛇口)に触らない。

●シャワー・給湯使用中に、使用者以外がお湯の温度を変更したり、運転スイッチを「切」にしない。思わぬ事故や、やけどのおそれがあります。

手で温度を確める

異常時の処置について

●地震・火災などの緊急時の場合は、速やかに使用を中止し、ガス栓を閉じる。

●給湯栓を開けても点火しない場合や使用途中で火が消える場合、または使用中に異常な燃焼や臭気・異常音・異常な温度を感じた場合

①ただちに使用を中止してガス栓を閉じる。

②「故障かな?と思ったら」(→P.16～P.18)に従って処置をする。

上記の処置をしても直らない場合は、使用を中止してお買い上げの販売店、または最寄りの東京ガスへ連絡する。

給湯栓・ガス栓を閉じる

機器本体でのやけどに注意

●使用中または使用後しばらくは、排気口付近に手を触れない。やけどのおそれがあります。

接触禁止

⚠注 意

ソーラーシステムと接続する場合

●ソーラーシステムと接続する場合は、出湯温度が設定温度よりも高くなることがありますので、必ずサーモスタット付混合水栓を使用し、手で温度を確認してからご使用ください。

配管カバー(または据置台)についての注意

●配管カバー(または据置台)のフロントカバーを外した場合、作業終了後には必ず、外したカバーをしっかりと閉める。(→P.15)

必ずお守りください

⚠注 意

電気事故防止

●電源コードを切断して延長はしない。電源コードがコンセントに届く範囲としてください。感電や発火の原因になります。
●電源プラグは根元まで完全に差し込む。差し込みが不完全な場合、感電・発火の原因になります。傷んだプラグ、緩んだコンセントは使わないでください。
●電源プラグのほこりなどは、定期的に取る。電源プラグにほこりがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。電源プラグを抜き、乾いた布で拭いてください。
●濡れた手で電源プラグをさわらない。感電のおそれがあります。

禁　止

●コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。

電気事故防止

●コンセントから電源プラグを抜くときは、プラグを持って抜く。コードを引っ張ると破損して感電や火災の原因になります。
●この機器は接地工事（アース）が必要なので、アースがされているか確認する。

アースを接続する

ドレン排水口から排出される水について

●ドレン排出配管から排出される水を飲料用・飼育用などに使用しない。

用途についての注意

●一般家庭での台所・シャワー・洗面・浴槽へのお湯張りなどの給湯以外の用途には使用しない。思わぬ事故につながることがあります。
●車両・船舶への搭載はしない。振動により機器が転倒し、火災や機器故障の原因になります。

長期間使用しない場合

●長期間使用しないときは、ガスの元栓を閉じてください。

お願い

ガス事故防止のために

●使用時の点火、使用後の消火のほか、使用中も正常に燃焼していることをリモコンの燃焼表示で確認してください。

リモコンの扱いについて

●浴室リモコンは防水タイプですが故意に水をかけないでください。台所リモコンには水をかけたり、炊飯器・電気ポットなどの蒸気を当てないでください。
故障の原因になります。
●リモコンはお子様がいたずらしないよう注意してください。

電源プラグを抜かない

●お手入れや長期間使用しない場合、および水抜きを行うとき以外は、電源プラグを抜かないでください。

停電時または電源プラグを抜いたとき

●この機器は、停電時や電源プラグを抜いたときは使用できません。
●停電時は給湯栓を閉じてください。

給湯栓を閉じる

●再通電したときは、リモコンの設定（給湯温度・湯量など）を行い、表示を確認したあとご使用ください。

断水のとき

●断水のときは、給湯栓を閉じ、リモコンの運転スイッチを「切」にしてください。
●断水が復帰した後、使い始めのお湯は飲用や調理用などには使用しないでください。飲用や調理用には適さない水が給水配管内にとどまることがあります。

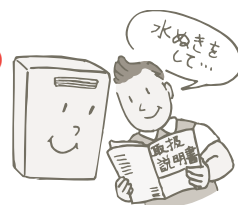
飲用にお使いのときは

●機器内に長時間たまった水（例えば朝一番の使い始めのぬるい湯が出るまで）は、飲まないで雑用水としてお使いください。

この機器は一般家庭用です

●業務用のような使いかたをされると、機器の寿命を著しく縮めます。この場合の修理は保証期間内でも有料となります。

長期間使用しないときは

●「機器の水を抜く方法」（→P.13）に従って、水抜きを行ってください。水が長いあいだ流れないと、一瞬濁ったお湯が出たり、冬期に凍結する場合があります。

必ずお守りください

お願い

凍結についての注意

●凍結のおそれがあるときは、「冬期の凍結予防をするには」（→P.13）に従って処置してください。おこたると機器内の水が凍って機器が破損することがあります。
●機器や配管が損傷した場合、高額の修理費がかかります。（有料）
●凍結したままでは絶対に使用しないでください。
●凍結したときは「凍結してしまったときは」（→P.14）に従って処置をしてください。

市販の補助用具について

●事故防止のため、この機器の純正部品以外は使用しないでください。
●水圧の低い地域では泡沫水栓を使用しないでください。
●やけど対策上、サーモスタット付混合水栓の使用をおすすめします。
●混合水栓にはさまざまな種類があります。使用方法は、混合水栓の取扱説明書をご覧ください。

通水使用の禁止

●運転スイッチを「切」にした状態で給湯栓を開けて水を出したり、シャワーを浴びないでください。機器内通水部分の結露により機器の寿命を短くします。（冬期の凍結予防を除く）

日常の点検・お手入れ

●安全にお使いいただくために、点検・お手入れは月1回程度必ず行ってください。（→P.15）
●故障または破損したと思われるときは使用しないでください。このときお客様ご自身で修理せず、お買い上げの販売店、または最寄りの東京ガスへご連絡ください。
●浴槽や洗面台が、水中の微量の銅イオンと脂肪分（湯アカ）により青く着色することがあります。日々、浴槽や洗面台のお手入れをするとともに、万一着色した場合はクレンザーやアンモニア水（10%程度）等で拭き取ってください。
●ドレン排出配管の先からスムーズにドレン水排出されるか点検してください。ゴミ等によって閉塞されている場合は掃除を行ってください。（高効率のため、排水量が多くなっています）

お願い 設置する場所や状況について

設置場所について

●設置場所をお決めになるときは近隣の家が運転音（燃焼音、燃焼ファン）で迷惑にならない場所に設置してください。（工事担当者とご相談ください）
●足場などを組んだり、ハシゴ・脚立を使わなければメンテナンスができない高所などに設置しないでください。メンテナンスをお断りすることがあります。
●塀などを増設する場合は、機器の点検・修理のため空間を確保し空気の流れが停滞しないように考慮する。機器の点検・修理のためと燃焼不良の発生を防止するためです。（機器の点検修理のための空間については、販売店もしくは東京ガスにお問い合わせください）

地下水や温泉水、井戸水の注意

●この機器は上水道用です。水質によっては、機器内の配管内部に異物が付着したり、配管に穴があくなど耐久性を損なう場合や、機器が正しく作動しないことがあります。この場合、保証期間内でも有料修理となります。

給排気について

●機器は給気・排気が十分できる場所に設置してください。給排気が不十分な場所に設置すると不完全燃焼の原因となります。

排気ガス

●増改築時には、燃焼排気ガスが直接建物の外壁や窓・ガラス・網戸・アルミサッシなどに当たらないようにしてください。変色・破損・腐食の原因になります。
●この機器は熱効率が高いため、排気口から白い湯気が出やすくなっています。これは水蒸気であり、故障ではありません。

各部の名称とはたらき

■機器本体(図はTP-S524RFWを示します)

各部の名称とはたらき

台所リモコン〔TP-RK505A〕、浴室リモコン〔TP-RB505A〕を取付けている場合は、お湯張り機能（自動止水）が使用できます。

■台所リモコン　〔TP-RK505A〕（別売品）

※防水タイプではありません。

優先ランプ（緑）
優先ランプが点灯しているときは給湯温度の調節が可能です。

燃焼ランプ（赤）
給湯燃焼中に点灯します。

お湯張りランプ（緑）
お湯張りスイッチが「入」のとき点灯します。
設定した湯量まで達すると点滅し、お湯張りスイッチを「切」にすると消灯します。 （→P. 10）

お湯張りスイッチ
スイッチが「入」のとき、設定した湯量までお湯はりすると、出湯が停止して音声でお知らせします。その後給湯栓を閉じてください。 （→P. 10）

設定スイッチ
お湯張りの温度、お湯張り量、音量を設定するときに押します。 （→P. 11～12）

給湯温度設定スイッチ
給湯温度・お湯張り温度・お湯張り量・音量を調節するときに使用します。

給湯温度表示
通常は給湯温度を表示しています。また設定変更時には、お湯張り温度・お湯張り量・音量を表示します。

お湯張り温度変更モード表示
お湯張り温度変更モードのときに表示します。

お湯張り量変更モード表示
お湯張り量変更モードのときに表示します。

音量変更モード表示
音量変更モードのときに表示します。

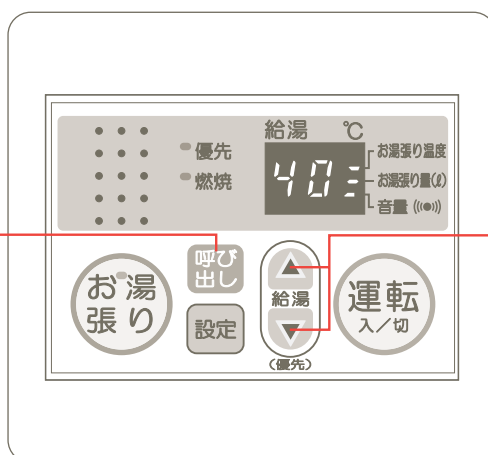
運転スイッチ
操作するときに最初に押して「入」にします。給湯温度を表示します。 （→P. 8）

■浴室リモコン　〔TP-RB505A〕（別売品）

※説明は台所リモコン〔TP-RK505A〕との違いのみを説明します。それ以外は〔TP-RK505A〕の説明をご覧ください。

呼び出しスイッチ
台所リモコンを取り付けている場合は、スイッチを押すと台所リモコンでチャイムと音声が流れてお知らせします。 （→P. 12）

給湯温度設定スイッチ
給湯温度・お湯張り温度・お湯張り量・音量を調節するときに使用します。
給湯温度を調節するときに優先切替ができます。 （→P. 9）

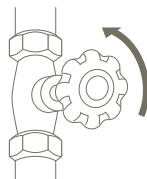
お使いいただくまえに

ご利用前の準備

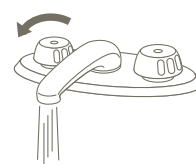
はじめてお使いになるときは、まず屋外にある機器の準備をします。

1 点検・確認を行います

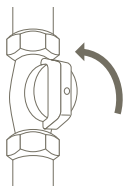
機器や機器周辺の点検・確認を行います。
（→P.15）

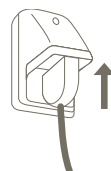
2 給水元栓を全開にします

機器の下にあります。

3 給湯栓を開けます

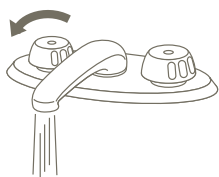
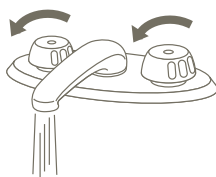
水が出ることを確認して、

給湯栓を閉じます。

4 ガス栓を全開にします

機器の下にあります。

5 電源プラグを差し込みます

コンセントは機器周辺部にあります。

お湯を使うには（リモコンなしで使う）

給湯栓を開ければ、お湯が出ます。お湯の温度は約60℃の高温（一定）になります。必ず混合水栓をお使いください。

1 給湯栓を開けてお湯を出します

2 水を混ぜて温度を調節します 使い終わったら給湯栓・給水栓を閉じてお湯を止めます

⚠警告 ●給湯、シャワー等を使うときは、給湯温度を確認し、手で温度を確かめてから使う。おこたるとやけどのおそれがあります。

●混合水栓にはサーモスタット付き・シングルレバータイプ・止水機能付きなどさまざまな種類があります。
●やけどを防ぐため、サーモスタット付混合水栓の使用をおすすめします。

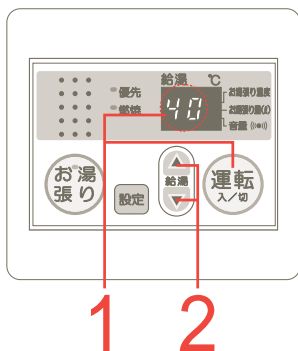
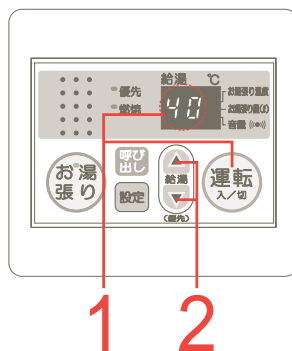
お湯を使うには（別売品のリモコンを使う）

おふろのシャワーや上がり湯のほか、台所や洗面所などで使う給湯の操作について説明します。
給湯は別売品の台所リモコン、浴室リモコンからも操作できます。

台所リモコン
〔TP-RK505A〕

1　2

浴室リモコン
〔TP-RB505A〕

1　2

1 運転スイッチを「入」にします

運転スイッチを押します。

表示

給湯温度

運転「入」になると給湯温度を表示します。

2 給湯温度を調節します

温度が上がります

給湯

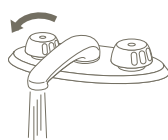
温度が下がります

給湯温度は以下の１４段階から選べます。

ご使用の目安　（単位：℃）

37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	50	55	60
食器洗いなど		シャワー・給湯など					給湯など				高　温		

40：工場出荷時

3 給湯栓を開けてお湯を出し、使い終わったら閉じます

点灯

給湯燃焼ランプが点灯します。

消灯

給湯燃焼ランプが消灯します。
※他の給湯栓でお湯が使われているときは消灯しません。

お湯を使うときの注意

⚠警告

●給湯・シャワー等を使うときは、給湯温度を確認し、手で温度を確かめてから使う。確認をおこたるとやけどのおそれがあります。
●シャワー使用中は使用者以外温度の変更や優先の切替・運転スイッチを「切」にしない。行うとシャワーの温度が急変し、危険です。必ず、浴室リモコンを優先にして、給湯温度を確認してから使用してください。

ご注意ください

●給湯栓を閉じても再使用時の点火をより早くするため、機器の燃焼ファンがしばらく回転しますが、故障ではありません。
●お湯を１時間以上連続使用すると、給湯栓閉め忘れ確認のためアラーム番号“０１１”を表示し、燃焼が止まり水になります。その場合は、一度給湯栓を閉じてから再度ご使用ください。

使いかた

お湯を使うには（別売品のリモコンを使う）

お湯を使うときの注意

お願い

- 表示している温度と給湯栓から出る湯温は、配管の長さや外気温等により必ずしも一致しません。表示温度は目安としてお考えください。
- 使いはじめは給湯配管の水が流れ出るまでしばらくお湯が出ません。(配管の長さによりお湯が出るまでの時間が異なります)
- 給湯栓をしぼり過ぎると、熱いお湯が出たり、燃焼が停止して水になることがあります。
- 水温が30℃近くなる夏期では、低温にセットしても給湯栓の湯量が少ないと給湯温度が高くなります。この場合は給湯栓をさらに開けて湯量を多くするか、水と混合してお使いください。

給湯温度を調節するときの注意

ご注意ください

- 台所リモコン〔TP-RK505A〕・浴室リモコン〔TP-RB505A〕をお使いの場合、50℃以上に給湯温度を設定するとチャイムが鳴り、音声ガイドが“ 熱い温度にセットされました　注意してください ”と2回お知らせします。

お願い

- 55℃以下の温度で給湯・シャワーを使用しているときは、やけど防止のため60℃以上には設定変更ができません。60℃以上に設定しようとすると“ ピピピピピ ”と警告音が鳴って受け付けません。変更をしたいときは、一旦給湯を止めてから設定してください。また、設定するときは他の場所で給湯が使われていないか、よくご確認ください。
- 通常、給湯温度は運転スイッチを「 切」にしても記憶されていますが、給湯温度を60℃に設定したときはやけど等の危険防止のため、再度運転スイッチを「 入」にしたとき自動的に55℃にセットされます。
- はじめてお使いのときや停電時、電源プラグを抜いた場合など、一度通電が止まって再通電したときは、給湯温度表示が40℃になります。 再度セットし直してください。

■優先切替について（給湯温度を調節できるリモコンの切替えを「優先切替」といいます）

優先ランプが点灯しているリモコンで給湯温度が調節できます。優先ランプが消灯している場合は、下記の手順で優先ランプを点灯させてから給湯温度を調節してください。（浴室リモコン・台所リモコンの両方がある場合）

（設定温度は例です）

- 優先を切替えたとき、切替え前の給湯温度が60℃以上だった場合、自動的に55℃にセットし直されます。

浴槽にお湯張りをするには

■お湯張り機能について

浴槽にお湯張りをするときは、お湯張り機能を使うとお湯の入れすぎがなく便利です。
設定した湯量になると自動的に出湯を停止し、台所リモコン、浴室リモコンの両方でチャイムと音声ガイドがお知らせします。

お湯張りを途中で止めたいときは

給湯栓を閉じてから、お湯張りスイッチを押してお湯張りランプを消灯させます。

お湯張り中に停電があったときは

水が流れたままになります。
給湯栓を閉じて、浴槽を空の状態にしてから、お湯張りをやり直してください。

■お湯張り機能を使ってお湯張りする

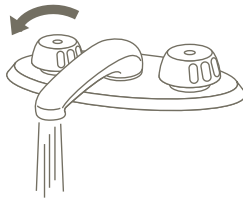
初めて操作するときは、工場出荷時の設定になっています。お湯張り温度：40℃、お湯張り量：180ℓ

1 運転スイッチを「入」にします

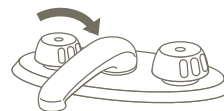
給湯温度を表示します。

2 お湯張りスイッチを押します

お湯張りランプが点灯します。
チャイムが鳴り、音声ガイドが2 回鳴ります。
“ お湯張りを始めます
おふろの栓をしてから、蛇口を開けてください ”

3 おふろの栓をして、給湯栓を開けます

燃焼ランプが点灯します。

4 音声ガイドが鳴ったら給湯栓を閉じます

設定したお湯張り量に達すると、自動的にお湯が止まります。
お湯張りランプが点滅して、チャイムが鳴り、音声ガイドが2回流れます。
“ おふろに入れます
蛇口を閉めてから、お湯張りスイッチを押してください ”

5 お湯張りスイッチを押します

お湯張りランプと燃焼ランプが消灯します。

※音声ガイドでお知らせします “ 蛇口 ” は、給湯栓のことをいいます。

⚠注意
- 入浴の際には念のためよくかきまぜ、湯かげんを手で確かめる。確認をおこたるとやけどのおそれがあります。

お願い
- お湯張り機能を使うときは、給湯栓のみを開け、水と混ぜないでお湯張りしてください。
- お湯張り機能を使ってお湯張り中に台所など他の場所でお湯を使うと、他で使った量だけ浴槽へのお湯張り量が減りますので気をつけてください。（例えば、設定湯量が180ℓのとき、台所で30ℓ使うと、浴槽に150ℓ入れたところでチャイムと音声ガイドがお知らせします）
- お湯張り中に▲・▼スイッチを押すと警告音が鳴り、“ お湯張りをしています ”と2回お知らせして優先の切替え・温度の変更ができません。
- お湯張りが終わった後は早めに給湯栓を閉じてから、お湯張りスイッチを押してください。お湯張り動作を終了させるまで、他の給湯栓を開けてもお湯はでません。
- お湯張りが終わった後に給湯栓を閉じないままお湯張りスイッチを押すと、
  - ・給湯栓が閉じられたかどうかを機器が確認するために、1分間隔で給湯栓から水(配管内の湯)が出ます。
  - ・リモコンがチャイムと音声ガイドで“ 蛇口が開いています　蛇口を閉めてから、お湯張りスイッチを押してください ”とお知らせします。
  - ・10 分以上給湯栓が閉じられないと、リモコンに「 CL」が点滅表示され、給湯栓から水が出なくなります。
- リモコンに「CL」が点滅表示されたら、給湯栓を閉じてからお湯張りスイッチを押して解除してください。（→P.18）

浴槽にお湯張りをするには

■お湯張り温度・お湯張り量の設定

工場出荷時は、お湯張り温度40℃、お湯張り量180ℓに設定されていますが、お好みで設定することができます。

1 運転スイッチを「入」にします

給湯温度を表示します。

2 設定スイッチを押します

お湯張り温度点滅　点灯

お湯張り温度変更モード表示が点灯し、お湯張り温度が点滅します。

3 お湯張り温度を調節します

▲・▼スイッチは、お湯張り温度が点滅している間に押します。

お湯張り温度は以下の12段階から選べます。

ご使用の目安　（単位：℃）

37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
ぬるい			標準			あつい					

40：工場出荷時

続けてお湯張り量を設定するときは、お湯張り温度が点滅している間に4へ進んでください。

4 設定スイッチを押します

お湯張り量変更モード表示が点灯し、お湯張り量が点滅します。

5 お湯張り量を調節します

▲・▼スイッチは、お湯張り量が点滅している間に押します。

リモコンには下１桁の“０”が表示されません。　例）200ℓ → 20

湯量は以下の１６段階から選べます。

表示	5	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	40	50
設定	50ℓ	120ℓ	140ℓ	160ℓ	180ℓ	200ℓ	220ℓ	240ℓ	260ℓ	280ℓ	300ℓ	320ℓ	340ℓ	360ℓ	400ℓ	500ℓ

※工場出荷時には180ℓに設定されています。

▲・▼スイッチで入力後、しばらくたつと確定となります。
給湯温度表示に戻ります。

給湯温度表示

お願い

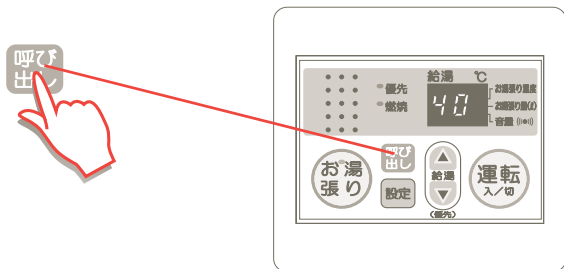
- 浴槽の種類によっては、お湯張り量を多めに設定するとあふれる場合があります。初めは、工場出荷時の180ℓでお湯張りし、実際の湯量を確認してからお好みの湯量に調節することをおすすめします。
- お湯張り温度・湯量は運転スイッチを「切」にしても記憶されていますが、停電や電源プラグを抜いた後再通電したときは、お湯張り温度40℃・湯量180ℓになりますので再度設定してお使いください。

- サーモスタット付き混合水栓をお使いの場合、必ず水栓側の温度設定を「H」または「高」の方向へいっぱいまで回して使用してください。中間の位置で使用すると設定湯量より多くお湯はりし、浴槽からあふれることがあります。お湯張り終了後は、サーモスタット付混合水栓の設定温度を通常使用している温度に下げてください。
- サーモスタット付き混合水栓をお使いの場合、給湯栓の構造により「H」または「高」の方向へいっぱいに回してもお湯張り完了後、水が多少流れる場合があります。湯温が下がったり、浴槽からお湯があふれることがありますので、お湯張り完了後はすぐに給湯栓を閉じてください。
- 設定スイッチを順に押して「お湯張り温度」「お湯張り量」「音量」と続けてセットすることもできます。設定スイッチは以下のように操作します。

設定ボタン → 1回押す お湯張り温度 → 2回目 お湯張り量 → 3回目 音量

浴室から人を呼ぶ（呼び出しスイッチ）

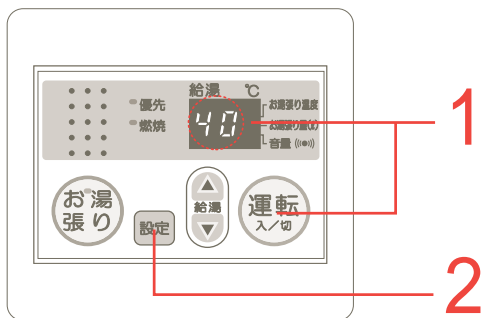
浴室リモコンの呼び出しスイッチを押すと、台所リモコンでチャイムと音声が流れてお知らせします。

呼び出しスイッチを押します

浴室リモコン
呼び出しスイッチを押している間チャイムが鳴ります。

台所リモコン
チャイムが鳴り“ おふろで呼んでいます ”と音声でお知らせします。

●運転スイッチの「 入」/「 切」に関係なく操作できます。
●インターホン機能は付いていません。
●浴室リモコンと台所リモコンを両方取り付けていない場合、浴室からの呼び出しは使えません。

チャイムや音声ガイドの音量を調節する

リモコン（TP-RK505A,TP-RB505A）では、チャイムや音声ガイドの音量を大きくしたり、小さくしたり、無音にしたりすることができます。それぞれのリモコンで、別々に設定できますので、お好みに合わせて調節してください。

1 運転スイッチを「入」にします

給湯温度を表示します。

2 設定スイッチを数回押し、音量変更モード表示にします

音量変更モード表示が点灯し、音量の数字が点滅します。

3 音量を調節します

▲・▼ スイッチは、音量の数字が点滅している間に押します。
音量は以下の４段階から選べます。

▲・▼ スイッチで入力後、しばらくたつと確定となります。

●設定した音量は、運転スイッチを「 切」にしても記憶されています。
●音量を「無音」にすると、音声ガイドは流れませんが、浴室リモコンで呼び出しスイッチが押されたときには、台所リモコンの呼び出し音声が「 大」で流れます。
●台所リモコンの呼び出し音声の音量、およびスイッチ操作時の“ ピッ ”という音の音量は調節できません。

冬期の凍結予防をするには

■凍結予防装置について

通常の寒さのとき（外気温 -15℃、有風5m/秒程度まで）

機器の電源プラグは、抜かないでください

機器には、気温が下がってくると自動的に機器内を保温する凍結予防ヒータがついています。電源プラグを抜いたりブレーカーを「切」にすると凍結予防装置がはたらきません。

・凍結予防装置は、運転スイッチの「入」/「切」に関係なく作動します。
・給水・給湯配管は凍結することがあります。配管は必ず保温材または電気ヒータを巻くなどの地域に応じて処置をしてください。

■給水・給湯配管を凍結させないために

この方法は機器本体だけでなく、給水・給湯配管やバルブ類および給湯栓の凍結予防に有効です。

1 別売のリモコンを取り付けている場合は運転スイッチを押してリモコンを「切」にします。リモコンがない場合は電源プラグを抜きます。

2 ガス栓を閉じます。

3 浴室の給湯栓を開け、1分間に400cc程度の水を流し続けます。
流量が不安定なことがありますので、念のため30分ぐらい後にもう一度流量を確認してください。

※サーモスタット式・シングルレバー式混合水栓の場合は最高温度に設定

●凍結予防をしているときは、家の人に凍結予防のために水を流していることをお知らせください。水を止めると凍結します。
●通水使用の禁止として、運転スイッチを切った状態で、給湯栓を開けて水を出さないようにお願いしていますが、凍結予防の場合は問題ありません。（→P．4）
●翌朝、お使いになるときは、給湯栓を開けて水が出ることを確認してから、運転スイッチを「入」にしてください。
●サーモスタット式混合水栓やシングルレバー式混合水栓をご利用の場合は、再使用時の給湯温度設定にご注意ください。

■機器の水を抜く方法

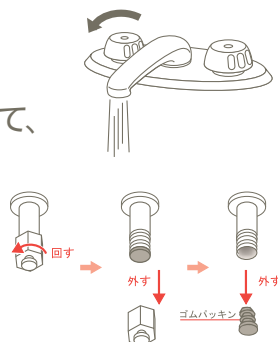
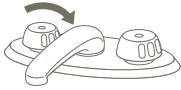
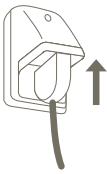
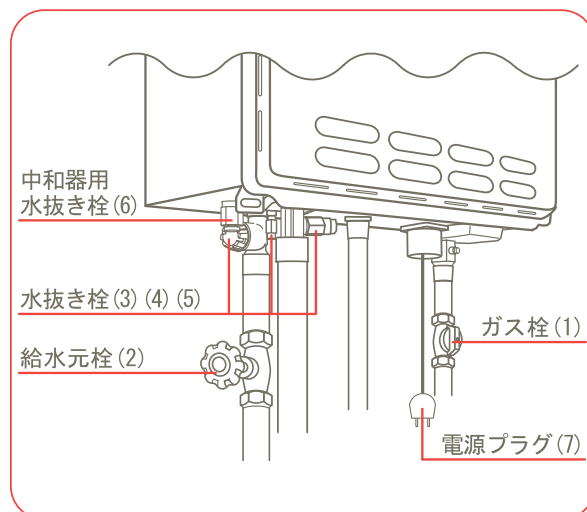
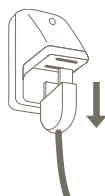
寒波などで特に寒くなりそうなとき（外気温 - １５ ℃より低い場合やそれ以上の気温でも風のある日）や入居前や長期不在で家のブレーカーを「切」にする場合や、電源プラグを抜く必要がある場合には、この方法で凍結予防をします。水抜き後は、次にお使いになるまでそのままにしておいてください。

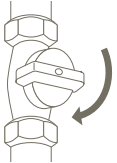
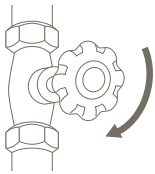
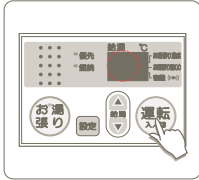
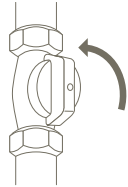
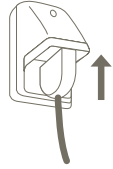
⚠注意 ●使用後すぐに水抜きをしない。やけどのおそれがあります。
機器やお湯が高温になっていますので冷えてから行ってください。

1 ガス栓（1）、給水元栓（2）を閉じます。

2 すべての給湯栓を全開にします。

3 水抜き栓（3）（4）（5）（6）を外して、水が出ることを確認します。

水抜き栓(6)の外しかた
水抜き栓(6)は中のゴムパッキンを外して、水抜き栓にはめ込みます。

4 必ず電源プラグ（7）を抜きます。
電源プラグを抜き忘れますと機器の故障の原因となります。

冬期の凍結予防をするには

■再使用するときは

機器内の水を排水したあと、しばらくして再度使用するときは次の操作をしてください。

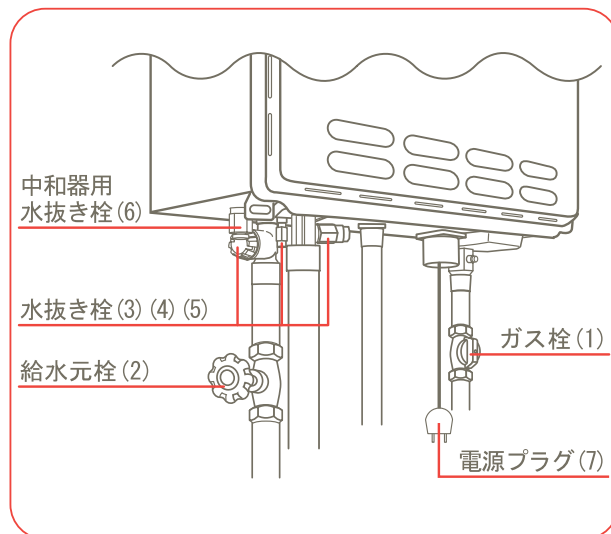
1 水抜き栓（3）（4）（5）（6）および
すべての給湯栓を閉じます。

2 給水元栓（2）を開けて、すべての給湯栓から水が出ることを確認します。

機器や配管より水漏れがないか確認してください。

3 電源プラグ（7）をコンセントに差し込みます。

4 ガス栓（1）を開けます。

中和器用
水抜き栓(6)
水抜き栓(3) (4) (5)
給水元栓(2)
ガス栓(1)
電源プラグ(7)

■凍結してしまったときは

凍結したときは給湯栓を開けても水は出てきません。解凍するまで待って、次の操作により水が出ることを確認してから運転してください。

1 ガス栓（1）を閉じます。

2 給水元栓（2）を閉じます。

配管が破損していると、解凍したときの水漏れの原因になります。

3 別売品のリモコンを取り付けている場合は、
運転スイッチを「切」にします。
リモコンを取り付けていない場合は、
電源プラグを抜きます。

4 ときどき給水元栓を開けて、
給湯栓から水が出ることを確認します。

水が出てくれば使用できます。通水したら、機器および配管から水漏れがないか確認してください。

5 ガス栓（1）を開けます。

6 別売品のリモコンを取り付けている場合は
運転スイッチを「入」にします。
リモコンを取り付けていない場合は電源プラグをコンセントに差し込みます。

⚠ **注意** ●配管カバー（または据置台）のフロントカバーを外した場合は、作業終了後には、必ず外したカバーをしっかりと閉める。（→P.15）

お願い
●床などに水が流れては不都合な場所で水抜きをするときは、あらかじめ容器を用意して水を受けてください。
●水抜きをした後に再使用するときは、水抜き栓を元通り確実に閉じてください。閉じかたが不十分だったり閉じ忘れたりすると、そこから水漏れします。
●取扱説明書に従った凍結予防の処置をせずに機器や配管が破損しますと、高額の修理費用（有料）がかかる場合があります。
●給水・給湯配管が凍結すると配管や給湯栓が破損することがあります。解凍後は、水道メーターを見るなど水漏れしていないことを確認してください。

点検のポイント・お手入れのしかた

■点検のポイント（月1回程度）　次の6つのポイントで点検してください。

1. **機器および配管から水漏れはありませんか?**
   水漏れは、機器の故障だけでなくお隣や階下の方にも多大な迷惑をかけます。
2. **機器および配管からガスの臭気がしませんか?**
3. **運転中に機器から異常音がしませんか?**
4. **機器の外観に異常は見られませんか?**
5. **機器のまわり、および排気口のそばに燃えやすいものはありませんか?**
   また、整然とされていますか?
   機器のまわりが雑草や木くず・箱などで雑然としていると、機器の内部に害虫（ゴキブリなど）が侵入したり、くもの巣がはったりして、機器の故障などの原因になる場合があります。
6. **給気口・排気口への積雪や、屋根から落ちた雪により排気口が塞がれていませんか?**
   給気口・排気口が塞がれていると、機器が不完全燃焼することがあります。
   積雪時には給気口・排気口の点検、除雪を行ってください。屋根から落ちた雪が給気口・排気口を塞ぐおそれがあるときはお買い上げの販売店、または最寄りの東京ガスへご連絡ください。

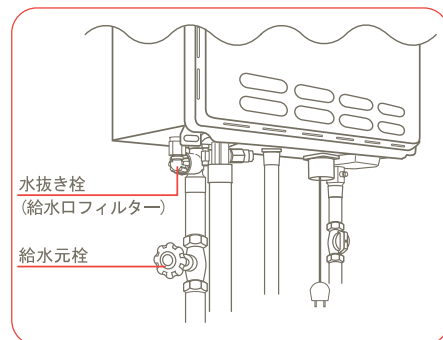
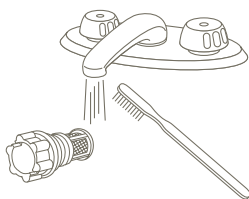
■お手入れのしかた（月1回程度）

機器本体およびリモコンの掃除

- 汚れは、水に濡らしたやわらかい布をかたく絞って、軽く拭き取ってください。
- シンナー・ベンジンなどは使わないでください。変色・変形する場合があります。

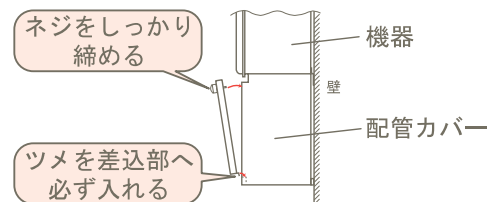
給水口フィルターの掃除

給水口フィルターが詰まるとお湯の出が悪くなったり、お湯にならない場合があります。
そのときは、次の要領で給水口フィルターを掃除してください。（特に、新築の場合）

1. 給水元栓を閉じます。
2. 給水接続口にある水抜き栓（給水口フィルター）を外します。
3. 歯ブラシなどで洗います。
4. 元のように取り付けます。

■定期点検のおすすめ(有料)

- ご使用上支障がない場合でも、不慮の事故を防ぎ、安心してより長くご使用いただくために、年一回程度の定期点検をおすすめします。お買い上げの販売店、または最寄りの東京ガスへご相談ください。

配管カバー（または据置台）のフロントカバーについて

配管カバー（または据置台）のフロントカバーを外した場合、作業終了後には、必ず外したカバーを元の通り取り付けてください。
①カバー下部のツメを差込部へしっかりと差し込み、外れないことを確認。
②化粧ネジをしっかりと締める。

⚠警告 ●フロントカバーを外したり、リモコンを分解したりしない。

- 機器本体のお手入れは、ガス栓を閉じ、電源プラグを抜き、機器が冷えてから行ってください。また、けがなどしないよう、指先には十分注意してください。
- 給湯栓の先端に泡沫器が内蔵されているものについては、ときどき内部のフィルターを掃除してください。
- 台所リモコンには水をかけないようにしてください。リモコンの内部には電気部品が入っていますので故障の原因となります。また、浴室リモコンは防水タイプですが、故意に水をかけないでください。

お願い
- 洗剤およびシンナー、ベンジンなどでは拭かないでください。
- 水圧の低い地域では泡沫器は使用しないでください。
- 給水口フィルターを外すと水が出ます。水が流れては不都合な場所では、あらかじめ容器を用意して水を受けてください。

故障かな？と思ったら

■お湯の出かた

こんなとき	故障ではありません
給湯栓を開けてもすぐにお湯が出ない	最初に使うときは、機器から給湯栓までの配管内の水が押し出されるまで少し時間がかかります。
夏などぬるいお湯が出ない	給湯栓を十分開けてお湯の量を多くすれば温度は安定します。水温が高いとき、ぬるいお湯を少量出そうとするとお湯の温度が高くなることがあります。
冬などあついお湯が出ない	お湯の量を少なめにしてお使いください。 水温が低いときには、お湯を出しすぎるとあついお湯が出ない場合があります。
給湯栓を絞りすぎて水になった	給湯栓を十分開けてお湯の量を多くすれば温度は安定します。機器から出るお湯の量が、１分間に約3.0ℓ以下になると消火するためです。
お湯が白く濁って見える	水の中の空気が分離して気泡となるためです。 ビール・サイダー等の泡と似た現象であり、汚濁とは違って無害なものです。
給湯栓を開けたとき、お湯の量が変動する	湯温を安定させるために自動的に湯量調整をしています。すぐに湯量は安定します。

こんなとき	ここを調べてください
あついお湯が出ない	◎湯温調節は適切ですか？ (→P. 8) ◎ガス栓が全開になっていますか？ (→P. 7)
ぬるいお湯が出ない	◎湯温調節は適切ですか？ (→P. 8) ◎給水口フィルターが詰まっていませんか？(→P. 15) ◎給湯栓が十分開いていますか？ (→P. 7, 8, 10) ◎給水元栓が全開になっていますか？ (→P. 7)
お湯が出ない（運転しない）	◎電源プラグが確実にコンセントに差し込まれていますか？ (→P. 7) ◎停電していませんか？ (→P. 3) ◎ガス栓が全開になっていますか？ (→P. 7) ◎給水元栓が全開になっていますか？ (→P. 7) ◎給水口フィルターが詰まっていませんか？(→P. 15) ◎給湯栓が十分開いていますか？ (→P. 7, 8, 10) ◎断水していませんか？ (→P. 3) ◎凍結していませんか？ (→P. 14) ◎お湯を1時間以上連続使用しませんでしたか？(→P. 8) ◎ガスメーター（マイコンメーター）がガスを遮断していませんか？
家中のお湯が出なくなった	◎お湯張り機能を使ってお湯張りしたあとお湯張りスイッチを解除しましたか？ (→P. 10)

それでもわからないときはアフターサービスをお申しつけください

故障かな？と思ったら

■機器本体

こんなとき	故障ではありません
寒い日に排気口から白い湯気が出る	外気温が低いときには排気ガスの水蒸気が白い湯気となりますが、故障ではありません。この機器は熱効率が高いため、白い湯気が出やすくなっています。
出湯停止後も燃焼ファンの回転音がする	再使用時の点火をより早くするためしばらくは回転しています。
給湯栓を閉じると、給湯側の水抜き栓から一瞬水が漏れる	給湯側の水抜き栓は過圧逃し弁をかねています。水の圧力を逃がすために水が出る場合があります。

こんなとき	ここを調べてください
運転中に機器から異常音がする	点検依頼をしてください。

■リモコン

こんなとき	ここを調べてください
画面表示しない	◎電源プラグが確実にコンセントに差し込まれていますか？ (→P. 7) ◎停電していませんか？ (→P. 3)
アラーム番号が表示された	アラーム番号を確認してください。 (→P. 18)

■機器本体・リモコン

こんなとき	ここを調べてください
給湯燃焼ランプが点灯しない（運転しない）	◎電源プラグが確実にコンセントに差し込まれていますか？ (→P. 7) ◎停電していませんか？ (→P. 3) ◎ガス栓が全開になっていますか？ (→P. 7) ◎給水元栓が全開になっていますか？ (→P. 7) ◎給水口フィルターが詰まっていませんか？(→P. 15) ◎給湯栓が十分開いていますか？ (→P. 7, 8, 10) ◎断水していませんか？ (→P. 3) ◎凍結していませんか？ (→P. 13) ◎ガスメーター（マイコンメーター）がガスを遮断していませんか？ 上の9項目を確認してリセット操作をしてください。

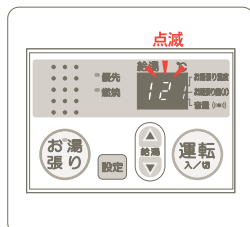
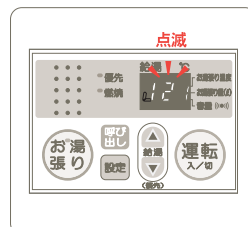
それでもわからないときはアフターサービスをお申しつけください

リセット操作
- 別売品のリモコンを付けている場合は、運転スイッチを「切」にし、約5秒後「入」にしてお使いください。
- 本体操作の場合は、一度給湯栓を閉じ、約5秒後に再度給湯栓を開けてください。

故障かな？と思ったら

■リモコンにアラーム番号が出たとき

不具合が生じたとき、その原因をアラーム番号でお知らせします。
原因に応じて表示部にアラーム番号が表示点滅し自動的に運転を停止します。
アラーム番号が表示点滅したときは、お買い上げの販売店、または最寄りの東京ガスへご連絡ください。その際は、表示されているアラーム番号もお知らせください。

台所リモコン〔TP-RK505A〕

浴室リモコン〔TP-RB505A〕

アラーム番号	原　　因	処　　置
03 1	ガス種選択異常	ガス栓が全開であることを確認後、リセット操作 ↓ それでもアラーム番号がでるときは、修理を依頼してください。
11 1	給湯点火不良	
12 1	給湯失火	
31 1	混合温サーミスタ断線・短絡	
32 1	入水温サーミスタ断線・短絡	
51 0	元ガス電磁弁故障	
51 1	給湯ガス電磁弁故障	
61 1	ファン回転異常	
70 1	制御基板異常	
72 1	プリ・ポスト異常	
74 1	台所リモコン通信異常	
75 1	浴室・増設リモコン通信異常	
C L	お湯張り終了後、お湯張り機能の解除忘れ	給湯栓を閉じて、**お湯張り**スイッチを押す(→P. 10)
01 1	給湯60分以上連続使用	給湯栓を閉じる
10 1	燃焼異常装置作動	修理を依頼する
29 1	中和器詰まり	
39 1	燃焼異常装置故障	
92 1	中和器交換警告（使用可能）	
93 1	中和器交換警告（使用不可）	
99 1	燃焼異常装置作動	

リセット操作　運転スイッチを「切」にし、約5秒後「入」にしてお使いください。

ご注意ください

- “291”“921”“931”は中和器に関するアラームですのでこれらのエラーが出ましたら、お買い上げの販売店、または最寄りの東京ガスへご連絡ください。
- アラーム番号“921”“931”が表示されたときは、中和器の交換が必要なため、修理を依頼してください。
  アラーム番号“921”では機器はしばらく使用できますが、リモコンのアラームは点滅したままです。点滅中は、リモコンの給湯温度が表示されませんので、湯温を確かめてから使用してください。
  アラーム番号“931”では機器の使用はできません。

- アラーム番号“101”が表示されたときは、給湯自己診断機能により給湯能力が下がります。（例えば24号から約12号に）使用はできますが十分な給湯能力が出ない状態ですので修理を依頼してください。（自己診断機能とは、機器のガスの燃焼が異常になった場合にその燃焼を正常にしようとする機能をいい、自己診断機能が働いても燃焼が正常にならない場合は自動的に運転を停止します）
- アラーム番号“111”・“121”が表示されたときは、給湯栓を閉じることにより、アラームが解除される場合があります。

アフターサービスについて

サービスを依頼されるときは

●「故障かな?と思ったら」(→P.16〜P.18)の項を確認ください。それでも直らない場合、あるいはご不明の場合には、お客様ご自身で修理なさらないで、お買い上げの販売店、または最寄りの東京ガスへご連絡ください。

●アフターサービスをお申しつけの際は、次のことをお知らせください。

(1) 氏名・住所・電話番号・道順(付近の目印等)
(2) 品名(例):TP-S524RFW
機器コード:11-033-22-06897
(3) 現象(故障または異常内容、アラーム番号などできるだけ詳しく)
(4) 訪問ご希望日

万一のときでも安心です!

東京ガスグループは万全なメンテナンスサービスをご提供します

受付対応

◆月〜土曜日の修理は9:00〜19:00まで電話受付
月〜土曜日は朝の9時から夜の7時まで、機器の修理・オーバーホールのお申し込みを承ります。

◆日曜・祝日の修理は9:00〜17:00まで電話受付
日曜・祝日は朝の9時から夕方5時まで、機器の修理・オーバーホールのお申し込みを承ります。

出張対応

◆月〜土曜日の17:00までの受付は、当日中にご訪問

◆月〜土曜日の17:00以降の受付は、翌日にご訪問
翌々日以降の希望日にご訪問することも可能です。
なお、緊急時の場合は、ご相談ください。

◆日曜・祝日の15:00までの受付は、当日中にご訪問

◆日曜・祝日の15:00以降の受付は、翌日にご訪問

万一、ガス機器に故障が生じた場合等、修理に関すること何でも、別紙「お問い合わせ先一覧表」をご覧になり、ご用命ください。

アフターサービス等についてわからないとき

●お買い上げの販売店、または最寄りの東京ガスへお問い合わせください。

保証について

●取扱説明書の裏表紙が保証書になっています。

●必ず「販売店名・購入日」等の記入をお確かめになり、保証内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

●保証書を紛失されますと、無料修理期間であっても修理費をいただくことがありますので、大切に保管してください。

●保証期間経過後の故障修理については、修理により製品の機能が維持できる場合は、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の保有期間について

●この製品の補修用性能部品(機能維持のために必要な部品)の保有期間は製造打切り後10年です。ただし、保有期間経過後であっても補修用性能部品の在庫がある場合は有料で修理いたします。

転居または機器を移設される場合

●ガスの種類が、異なる地域へ転居される場合は、改造・調整の必要があります。お買い上げの販売店、または転居先のガス会社へご相談ください。

●増改築などのため機器を移設される場合、工事には専門の技術が必要となりますので、必ずお買い上げの販売店、または最寄りの東京ガスへご連絡ください。

●設置場所の選定にあたっては、運転音や振動が大きく伝わらないような場所をお選びください。また、機器本体の排気口からの温風や運転音が隣家の迷惑にならないような場所を選ぶなど、ご配慮ください。

●転居、移設にともなう調整や工事の費用は、保証期間内でも有料となります。

長期間使用しない場合

●長時間使用しない場合は次の操作をしてください。

(1) ガス栓を閉じます。
(2) 給水元栓を閉じます。
(3) 機器の水抜きを行います。(→P.13)
(4) 電源プラグを抜きます。

仕様一覧

■仕様表

項目			内容	
品名			TP-S524RFW	TP-S520RFW
型式名			GS-S2400W	GS-S2000W
外形寸法（mm）			幅350×奥行215×高さ520	
質量（kg）			23	
種類	給湯方式		先止め式	
	設置方式		屋外壁掛設置形 PS設置形標準設置	
点火方式			AC100V連続放電式（ダイレクト着火）	
水圧	使用水圧		150～500kPa（1.5～5.0kgf/cm²）	
	最低作動水圧		10kPa（0.1kgf/cm²）	
接続	ガス		15A(R1/2) オネジ	
	給水		20A(R3/4) オネジ	15A(R1/2) オネジ
	給湯		20A(R3/4) オネジ	15A(R1/2) オネジ
	ドレン接続口		15A(R1/2) オネジ	
電気関係	電源		AC100V(50/60Hz)	
	リモコン側		24V以下	
	消費電力	無負荷時	3W	
		使用時	56W	52W
		凍結予防時	150W	
	電源コード		VCT(2心) 機外長2.0m	
安全装置			空だき防止装置（水量センサ） ファン回転検知装置（回転数検知方式） 過電流防止装置（電流ヒューズ） 漏電安全装置（漏電スイッチ） 凍結予防装置（ヒータ） 空だき安全装置（ハイリミットスイッチ） 過熱防止装置（温度ヒューズ） 立消え安全装置（フレームロッド） 過圧防止安全装置（スプリング式） 誘導雷保護装置（サージアブソーバ）	
付属品			取扱説明書(保証書付)・工事説明書・取付ネジ一式	
別売品			台所リモコン・浴室リモコン・リモコンコード	

■能力表

品名	使用ガス 使用ガスグループ		1時間あたりのガス消費量kW	出湯能力（最大時）（ℓ/min）		ガス接続
				水温＋25℃上昇	水温＋40℃上昇	
TP-S524RFW	都市ガス	13A	45.5	24.0	15.0	15A (R1/2)
		12A	42.4	22.4	14.0	
TP-S520RFW	都市ガス	13A	37.9	20.0	12.5	
		12A	35.3	18.7	11.7	

◎ガス：JISに規定する標準ガス・標準圧力のとき。
◎出湯能力は、水圧200kPa{2.0kgf/cm²}のときで、温度を高めに設定し、水と混合させせることにより可能となる最大流量の計算値をいいます。
◎本仕様は改良のため、お知らせせずに変更することがあります。

保 証 書

ガス給湯器

品　名　TP-S524RFW　TP-S520RFW

型式名　GS-S2400W　GS-S2000W

上記機器をお買い上げいただきましてありがとうございます。この保証書は、東京ガス供給区域内において、都市ガスにてご使用になる場合に、本書記載内容で無料修理をお約束するものです。

記

1. 保証期間は、お買い上げの日から2年間とし、本体（リモコンを含む）を対象にします。なお、下記部品については、別途以下の年数を保証いたします。
   電装基板・リモコン（電装基板に起因する故障のみ）······3年
   熱交換器······3年
2. 万一故障の場合は、お買い上げの販売店または、最寄りの東京ガスへお申し出ください。原則として、出張修理いたします。
3. サービス員がお伺いしたときに、保証書をご提示ください。
4. 保証期間内においても、次の場合は有償修理といたします。
   (1)住宅用途以外でご使用になる場合の不具合
   (2)取扱説明書等の記載事項によらないでご使用した場合の不具合
   (3)機器を調整、改造された場合の不具合（但し、当社都合の場合はのぞきます）
   (4)お買い上げ後、取付場所の移動、落下等による不具合
   (5)建築躯体の変形等機器本体以外に起因する当該機器の不具合、塗装の色あせ等の経年変化またはご使用に伴う摩耗等により生じる外観上の現象
   (6)強い腐食性の空気環境に起因する不具合
   (7)犬、猫、ねずみ、昆虫等の動物の行為に起因する不具合
   (8)火災や凍結、落雷、地震、噴火、洪水、津波等の天変地異または戦争、暴動等の破壊行為による不具合
   (9)電気、給水の供給トラブル等に起因する不具合
   (10)指定規格以外のガス、電気または熱媒等をご使用したことに起因する不具合
   (11)給水・給湯配管などの錆び等異物流入に起因する不具合
   (12)温泉水、井戸水等を給水したことに起因する不具合
   (13)本保証書を紛失された場合
5. 無料修理やアフターサービス等についてご不明な場合は、お買い上げの販売店または、最寄りの東京ガスへお問い合せください。

保証履行者　:　東京ガス株式会社　〒105-8527　東京都港区海岸1丁目5番20号

保証責任者　:　高木産業株式会社　〒417-8505　静岡県富士市西柏原新田201

■お買い上げ日および販売店

お買い上げ日	年　月　日
販　売　店	
住　　所	
電 話 番 号	

見本

■修理記録

この機器の修理記録は、機器本体のフロントカバー裏に記録します。

■お客さまへ

1. この保証書をお受け取りになるときに、販売年月日、販売店、扱者印が記入してあることを確認してください。
2. 本証書は再発行いたしませんので紛失されないよう大切に保管してください。
3. 無料修理期間経過後の故障修理等につきましては「アフターサービスについて」の項をご覧ください。
4. この保証書によって保証書を発行している者(保証履行者・保証責任者)、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。